

持続可能な社会・地球を目指して

ジェイテクトグループは、環境を経営の重要な課題の一つとして位置づけています。

「No.1&Only One」の事業活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指すべく、

2020年6月に、環境スローガン「All for One Earth」と「ジェイテクト環境行動指針」から成る「環境理念」を策定し、
 全社・グループ一丸となった推進体制のもと、社会・地球の持続可能な発展に貢献する取り組みを進めています。

環境チャレンジ2050: 理念体系、指針

「未来の子どものために」をスローガンに持続可能な社会の実現を目指し、2050年の環境負荷極小化に向けた取組指針「環境チャレンジ2050」を策定しました。ジェイテクトグループの「環境チャレンジ2050」では「製品・技術」「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生・生物多様性」「環境マネジメント」を5つの柱として、環境負荷極小化、環境価値最大化に向けてジェイテクトグループ一丸となってチャレンジをしていきます。

環境チャレンジ 2050

2016年5月策定・公表

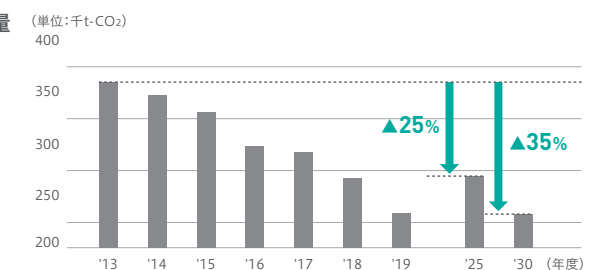
区分	指針
1. 製品・技術	製品・技術開発力を生かし環境社会へ貢献 燃料電池自動車向け部品など、環境負荷低減に貢献が期待できる製品開発を積極的に推進
2. 低炭素社会の構築	材料、部品調達から設計、製造、さらには廃棄までの製品のライフサイクルで排出されるCO ₂ を極小化 製品を生産するときに工場で排出されるCO ₂ を2050年までに極小化 革新工程・設備の開発・導入拡大 工場での日常改善、設備の高効率化 再生可能エネルギー、水素エネルギーなどへのエネルギー置換
3. 循環型社会の構築	生産段階での排出物の極小化と資源化の拡大 発生源対策(歩留り向上など)・分別の強化などによる廃材価値向上(有価物化) リサイクル材の活用、社内リサイクルの拡大 工場で使用される水の循環利用など、水使用量を極小化。工場から排出される水はよりきれいな状態で排水
4. 自然共生・生物多様性	オールジェイテクトでの活動はもちろん、トヨタグループ、行政・NPOと連携し、自然共生、生態系保護の活動を促進
5. 環境マネジメント	地球環境保全を積極的に進められる企業風土と人づくり 従業員の環境意識向上と社内外へ貢献できる人材の養成 グローバルで環境活動の拡大

次期中期目標の 策定について

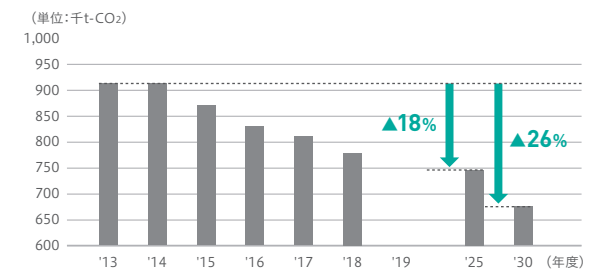
2030年CO₂総排出量目標の設定

「環境チャレンジ2050」で掲げたCO₂排出量“極小化”の実現に向けて、そのマイルストーンとして、2030年の中長期目標を設定しました。総排出量の目標は、2016年のパリ協定で合意された「2°C目標」(=産業革命前からの気温上昇を2度あるいはそれを下回ることを目標とする)と整合しています。グローバル全体のCO₂削減目標は、2013年度比26%、ジェイテクト単体のCO₂削減目標は、2013年度比35%以上とし、生産技術革新と工場の日常改善、再生可能エネルギーの導入に取り組むことで実現を目指しています。

■ジェイテクト単体CO₂総排出量



■グローバルCO₂総排出量



【CO₂排出量算出に用いる換算係数】

CO₂排出量原単位管理では、自社の改善効果を評価できるよう換算係数を固定。総排出量管理では、より実態に合ったCO₂排出量とするため、購入電力会社毎の年度別実換算係数(マーケットベース)を用いて算出

環境理念

環境理念

ジェイテクトおよびジェイテクトグループは、「No.1&Only One」の事業活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

All for One Earth

— かけがえのない地球のために —

【ジェイテクト環境行動指針】
 ジェイテクトは、中長期計画に基づき、環境マネジメントシステムの継続的な改善を進め、環境目標の達成やパフォーマンス向上に努めます。

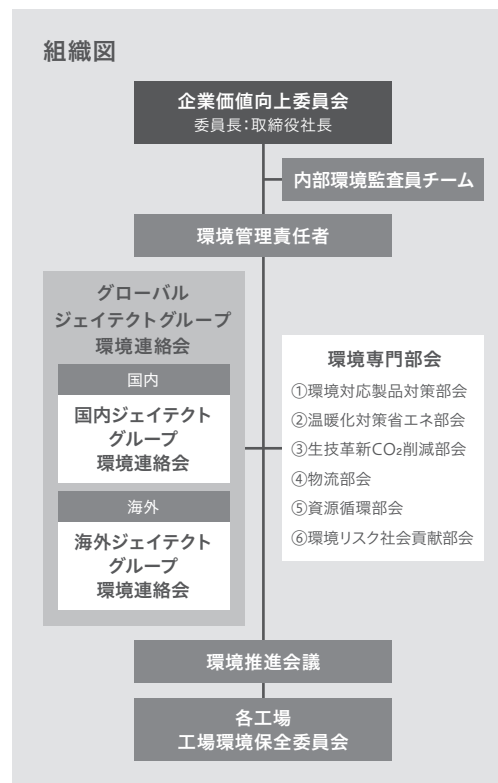
1. 環境法令の順守と、汚染予防の取組み
2. 低炭素・循環型社会に向けた、CO₂や化学物質等の環境負荷物質の削減
3. 地域との調和を通じた、生物多様性及び生態系保護の取組み

2020年6月25日
 株式会社ジェイテクト
 専務取締役 佐野 真琴

推進体制

企業価値向上委員会

ジェイテクトでは社長を委員長とする「企業価値向上委員会」を設置し、環境マネジメントを推進しています。委員会のもと、各環境専門部会が高い目標を掲げて活動を展開しています。



ジェイテクトだけでなく、国内グループ20社・海外グループ38社(2020年3月31日現在)を対象に、環境マネジメントの一層の強化に取り組んでいます。

グローバル 環境マネジメント

2025年環境行動計画

2030年の目標達成に向け、中間年にあたる「2025年環境行動計画」を策定しました。環境チャレンジ2050からバックキャストし、ジェイテクトグループが2025年に向けて取り組む具体的な数値目標を設定しています。

区分	実施	項目	基準年	2025年度目標
製品・技術	グローバル	製品によるCO ₂ 削減貢献量	-	1,650kt
		CO ₂ 排出量	2013年度	25%減
		物流CO ₂ 排出量	2013年度	25%減
低炭素社会の構築	ジェイテクト単独	再生可能エネルギー導入率	-	15%以上
		CO ₂ 排出量	2013年度	18%減
	グローバル	再生可能エネルギー導入率	-	10%以上
		再資源化率	-	99%以上
循環型社会の構築	ジェイテクト単独	廃棄物原単位	2018年度	7%減
		水使用量原単位	2018年度	7%減
		梱包資材原単位	2018年度	7%減
	グローバル	再資源化率	-	90%以上
廃棄物原単位		2018年度	7%減	
自然共生・生物多様性	グローバル	水使用量原単位	2018年度	7%減
		生物多様性保全取り組み参加人数	-	3,000人/年以上

詳細公開 <https://www.jtekt.co.jp/sustainability/environment/topics/>

TCFDへの参加

中長期の気候関連リスクと機会を特定し、当社の取り組みの適応力(レジリエンス)を評価しステークホルダーへ情報開示することが、持続的に成長できる企業の条件であるとの考えから、G20金融安定理事会(FSB)が設置した「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD:Task Force on Climate-related Financial Disclosures)」の最終報告提言への支持企業として2018年に賛同を表明しました。本年は当社における気候変動への取り組みをTCFDのフレームワークに沿って開示します。今後はシナリオ分析に向けて、国際エネルギー機関の2°Cシナリオをはじめとした複数のシナリオを選定し、将来の「社会像」を設定した上で取り組みの適応力(レジリエンス)を評価。さらには気候関連リスクと機会が、財務に与える影響の評価・開示を検討していきます。

詳細公開 <https://www.jtekt.co.jp/sustainability/environment/topics/>

2019年度の具体的な取り組み

資源投入と排出量

資源・エネルギー投入量(INPUT)と環境への排出量(OUTPUT)を定量的に把握しています。事業活動に伴う温暖化の影響を最小化するため、 casting、鍛造、熱処理、機械加工などエネルギー使用量の多い工程を中心に、エネルギーの削減に取り組むと共に、資源についても一層の歩留り向上を図り、有効利用を進めています。

■資源・エネルギー投入量と環境負荷物質排出量

INPUT 資源・エネルギー投入量		製造	OUTPUT 環境負荷物質排出量		
原材料		鑄造 大気への排出 CO ₂ 751千t-CO ₂ SOx 0.6t NOx 47t トルエン・キシレン 41t その他 PRTR法対象物質排出量 14t 水域・下水への排出 排水量 合計 3,332千m ³ (放流先別) 地表水 2,157千m ³ 地下水 76千m ³ 海水 62千m ³ その他(下水道等) 1,037千m ³ COD※4 25t 窒素 8t リン 0.3t PRTR法対象物質排出・移動量 0t 社外廃棄物 廃棄物(PCB廃棄物を除く) 24千t 逆有償リサイクル※5 23千t 売却リサイクル 143千t 危険廃棄物※6 16千t PRTR法対象物質移動量 14t 物流 製品輸送に関わるCO ₂ 15千t-CO ₂			
合計	335千t				
鋼材	318千t		鍛造 排水量 合計 3,332千m ³ (放流先別) 地表水 2,157千m ³ 地下水 76千m ³ 海水 62千m ³ その他(下水道等) 1,037千m ³ COD※4 25t 窒素 8t リン 0.3t PRTR法対象物質排出・移動量 0t 社外廃棄物 廃棄物(PCB廃棄物を除く) 24千t 逆有償リサイクル※5 23千t 売却リサイクル 143千t 危険廃棄物※6 16千t PRTR法対象物質移動量 14t 物流 製品輸送に関わるCO ₂ 15千t-CO ₂		
アルミインゴット	8千t				
樹脂ペレット	1千t				
燃料油・加工油	6,507kl				
グリース	2千t				
塗料	0千t				
資源循環量	23千t				
エネルギー			熱処理 水再生利用量 894千m ³ 化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量) 合計 79t 物流 包装梱包材 129千t		
合計	16,570,397GJ※1				
電力	1,424,519MWh	機械加工 水再生利用量 894千m ³ 化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量) 合計 79t 物流 包装梱包材 129千t			
再生可能エネルギー発電量	13,921MWh				
都市ガス	50,429千Nm ³				
LPG	4,866t				
灯油	601kl	塗装 水再生利用量 894千m ³ 化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量) 合計 79t 物流 包装梱包材 129千t			
A重油※2	196kl				
水					
合計	5,435千m ³	組立 水再生利用量 894千m ³ 化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量) 合計 79t 物流 包装梱包材 129千t			
(取水源別)					
地表水	1,249千m ³				
地下水	1,772千m ³				
その他(市水、工業用水等)	2,414千m ³	製品 水再生利用量 894千m ³ 化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量) 合計 79t 物流 包装梱包材 129千t			
水再生利用量	894千m ³				
化学物質(PRTR法※3対象物質取り扱ひ量)	79t				
合計	79t				
物流					
包装梱包材	129千t				

■ :ジェイテクトおよび国内グループ19社・海外グループ38社の集計
 ■ :ジェイテクトおよび国内グループ19社の集計
 ■ :ジェイテクト単独

第三者検証

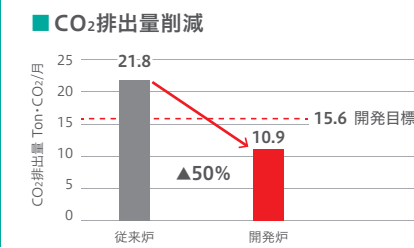
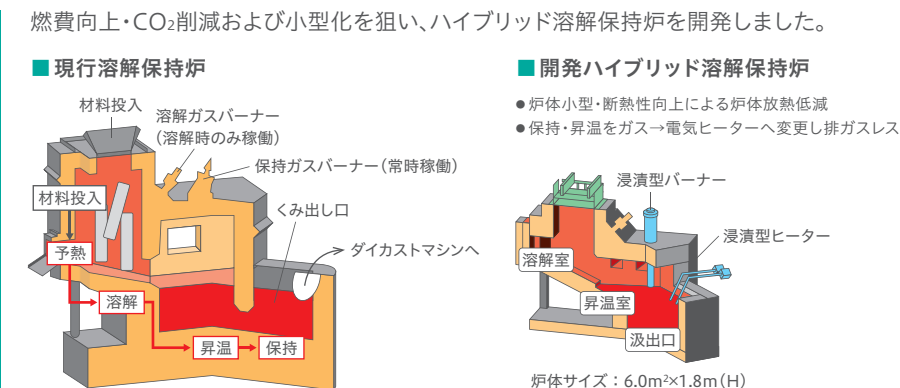
ジェイテクトでは、データに関する信頼性を高めるため、2019年度実績について、SGSジャパン株式会社による第三者検証を受審しました。検証の対象範囲はジェイテクトの生産事業所と国内グループ会社および一部の海外関係会社のScope1、Scope2排出量、水使用量、廃棄物排出量とScope3 カテゴリ6(出張)、カテゴリ7(雇用者の通勤)、カテゴリ11(販売した製品の使用)となります。

詳細公開 <https://www.jtekt.co.jp/sustainability/environment/img/efforts/management/img26.jpg>

省エネ・高精度鑄造工法の開発

～ハイブリッド溶解保持炉～

生産サポート本部:素形材革新部



エネルギー見える化の取り組み

海外関係会社:JTC(タイ)

JTEKT (THAILAND) CO., LTD.(以下JTC)では、2030年度CO₂排出量35%実現に向けて、毎年6%の削減目標を設定し取り組みを進めており、これまで2018年7月に太陽光発電システム導入により年間2,715t-CO₂を削減する等、取り組みを進めてきました。現在、更なる削減を図るべく、JTCではエネルギー見える化に取り組んでおり、従来の手動でのメーター確認では難しかった詳細なエネルギー使用状況の分析やムダの発見を遠隔監視システムで行い、さらにエネルギー消費量の管理、改善を進めていきます。



太陽光発電装置の導入

海外関係会社:JALY(フランス)

JTEKT AUTOMOTIVE LYON S.A.S.では、1,710 kWの太陽光発電システムを導入しました。今後も環境負荷が少ない再生可能エネルギーの導入に取り組み、自然と調和する工場づくりを進めていきます。



環境キャンペーン“木苗の配布”の実施

海外関係会社:JABR(ブラジル)

JTEKT AUTOMOTIVA BRASIL LTDA.では、2014年以降、環境週間における環境取り組みの一つとして、木苗の従業員への配布を実施しています。2019年度は、200本の木苗を配布し、従業員の自宅に植樹しました。今後も従業員への環境教育の一環として、この取り組みを次世代にもつなげていく予定です。



※1 ギガジュール(熱量を表す単位) G=10⁹
 ※2 A・B・Cの3種類に分類される重油の中で、最も軽油に成分が近く、ボイラーや暖房の燃料として利用されます。
 ※3 環境汚染物質排出・移動登録(Pollutant Release and Transfer Register)の略で、化学物質の環境への移動排出量を行政に報告し、行政が公表する制度
 ※4 化学的酸素要求量(水質汚濁の度合いを表す指標)
 ※5 処理費を支払ってリサイクルすること。
 ※6 日本は特別管理産業廃棄物、日本以外は各国の法律に基づき危険廃棄物と規程されているものの排出量を廃棄物排出量より抽出(廃棄物・逆有償リサイクルの内数)